

## 1. 連結財務諸表等

## 1 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	2022年度 (2023年3月31日)		2023年度 (2024年3月31日)		比較増減
	金 額	構成比	金 額	構成比	
(資産の部)		%		%	
現金及び預貯金	1,044,759	11.64	891,048	8.95	△ 153,711
買現先勘定	69,999	0.78	14,999	0.15	△ 55,000
買入金銭債権	21,915	0.24	21,686	0.22	△ 229
金銭の信託	21,235	0.24	4,842	0.05	△ 16,393
有価証券	5,918,870	65.95	7,275,789	73.09	1,356,919
貸付金	563,994	6.28	408,708	4.11	△ 155,285
有形固定資産	269,758	3.01	276,066	2.77	6,308
土地	83,769		83,220		
建物	116,167		132,605		
リース資産	27,025		30,066		
建設仮勘定	14,975		2,720		
その他の有形固定資産	27,820		27,452		
無形固定資産	423,982	4.72	407,637	4.10	△ 16,344
ソフトウェア	96,458		203,244		
のれん	118,746		100,212		
その他の無形固定資産	208,777		104,180		
その他資産	568,553	6.34	572,232	5.75	3,678
退職給付に係る資産	29	0.00	14	0.00	△ 15
繰延税金資産	74,012	0.82	83,663	0.84	9,651
貸倒引当金	△ 2,804	△ 0.03	△ 2,655	△ 0.03	149
資産の部合計	8,974,306	100.00	9,954,033	100.00	979,727
(負債の部)					
保険契約準備金	6,051,901	67.44	6,254,574	62.83	202,672
支払備金	2,292,144		2,683,340		
責任準備金等	3,759,756		3,571,233		
社債	609,051	6.79	612,349	6.15	3,297
その他負債	710,006	7.91	638,093	6.41	△ 71,913
退職給付に係る負債	52,114	0.58	14,031	0.14	△ 38,083
役員退職慰労引当金	16	0.00	16	0.00	△ 0
賞与引当金	36,170	0.40	51,423	0.52	15,253
役員賞与引当金	113	0.00	78	0.00	△ 35
特別法上の準備金	99,900	1.11	104,378	1.05	4,477
価格変動準備金	99,900		104,378		
繰延税金負債	—	—	120,261	1.21	120,261
負債の部合計	7,559,274	84.23	7,795,205	78.31	235,931
(純資産の部)					
株主資本					
資本金	70,000		70,000		
資本剰余金	42,923		42,917		
利益剰余金	452,731		690,048		
株主資本合計	565,655	6.30	802,966	8.07	237,310
その他の包括利益累計額					
その他有価証券評価差額金	756,125		1,157,627		
繰延ヘッジ損益	2,412		1,696		
為替換算調整勘定	54,992		140,330		
退職給付に係る調整累計額	20,297		40,382		
その他の包括利益累計額合計	833,827	9.29	1,340,035	13.46	506,208
非支配株主持分	15,548	0.17	15,825	0.16	277
純資産の部合計	1,415,031	15.77	2,158,828	21.69	743,796
負債及び純資産の部合計	8,974,306	100.00	9,954,033	100.00	979,727

## 2 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

### 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)		2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)		比較増減
	金 額	百分比	金 額	百分比	
<b>経常収益</b>	<b>3,959,774</b>	<b>100.00</b>	<b>4,311,986</b>	<b>100.00</b>	<b>352,211</b>
<b>保険引受収益</b>	<b>3,778,176</b>	<b>95.41</b>	<b>3,866,342</b>	<b>89.66</b>	<b>88,165</b>
正味収入保険料	3,670,717		3,690,419		
収入積立保険料	70,773		62,530		
積立保険料等運用益	30,159		30,434		
生命保険料	5,918		2,811		
責任準備金等戻入額	—		77,516		
その他保険引受収益	607		2,630		
<b>資産運用収益</b>	<b>162,041</b>	<b>4.09</b>	<b>406,604</b>	<b>9.43</b>	<b>244,562</b>
利息及び配当金収入	118,109		123,863		
金銭の信託運用益	3,105		5,787		
売買目的有価証券運用益	—		224,358		
有価証券売却益	54,218		62,591		
有価証券償還益	2,389		2,101		
その他運用収益	14,377		18,337		
積立保険料等運用益振替	△ 30,159		△ 30,434		
<b>その他経常収益</b>	<b>19,556</b>	<b>0.49</b>	<b>39,039</b>	<b>0.91</b>	<b>19,483</b>
貸倒引当金戻入額	—		137		
持分法による投資利益	990		1,194		
その他の経常収益	18,565		37,706		
<b>経常費用</b>	<b>3,895,023</b>	<b>98.36</b>	<b>3,922,595</b>	<b>90.97</b>	<b>27,572</b>
<b>保険引受費用</b>	<b>3,210,017</b>	<b>81.07</b>	<b>3,292,704</b>	<b>76.36</b>	<b>82,687</b>
正味支払保険金	1,947,811		2,020,257		
損害調査費	135,876		140,475		
諸手数料及び集金費	664,752		715,160		
満期返戻金	181,722		167,755		
契約者配当金	7		9		
生命保険金等	2,235		1,366		
支払備金繰入額	247,565		246,581		
責任準備金等繰入額	21,370		—		
その他保険引受費用	8,675		1,096		
<b>資産運用費用</b>	<b>155,234</b>	<b>3.92</b>	<b>56,473</b>	<b>1.31</b>	<b>△ 98,761</b>
金銭の信託運用損	2		—		
売買目的有価証券運用損	93,318		—		
有価証券売却損	23,273		17,794		
有価証券評価損	1,956		2,230		
有価証券償還損	—		1		
金融派生商品費用	23,249		12,799		
その他運用費用	13,434		23,646		
<b>営業費及び一般管理費</b>	<b>492,530</b>	<b>12.44</b>	<b>540,886</b>	<b>12.54</b>	<b>48,355</b>
<b>その他経常費用</b>	<b>37,240</b>	<b>0.94</b>	<b>32,531</b>	<b>0.75</b>	<b>△ 4,709</b>
支払利息	13,698		11,365		
貸倒引当金繰入額	4,819		—		
貸倒損失	77		70		
その他の経常費用	18,645		21,095		
<b>経常利益</b>	<b>64,751</b>	<b>1.64</b>	<b>389,391</b>	<b>9.03</b>	<b>324,639</b>
<b>特別利益</b>	<b>8,954</b>	<b>0.23</b>	<b>969</b>	<b>0.02</b>	<b>△ 7,984</b>
固定資産処分益	8,954		969		
<b>特別損失</b>	<b>6,841</b>	<b>0.17</b>	<b>6,571</b>	<b>0.15</b>	<b>△ 269</b>
固定資産処分損	2,211		996		
減損損失	148		1,096		
特別法上の準備金繰入額	4,480		4,477		
価格変動準備金繰入額	4,480		4,477		
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>66,864</b>	<b>1.69</b>	<b>383,789</b>	<b>8.90</b>	<b>316,924</b>
法人税及び住民税等	32,227		78,511		
法人税等調整額	△ 8,931		△ 48,370		
<b>法人税等合計</b>	<b>23,295</b>	<b>0.59</b>	<b>30,141</b>	<b>0.70</b>	<b>6,845</b>
<b>当期純利益</b>	<b>43,568</b>	<b>1.10</b>	<b>353,648</b>	<b>8.20</b>	<b>310,079</b>
<b>非支配株主に帰属する当期純利益</b>	<b>1,739</b>	<b>0.04</b>	<b>1,986</b>	<b>0.05</b>	<b>246</b>
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>41,829</b>	<b>1.06</b>	<b>351,662</b>	<b>8.16</b>	<b>309,832</b>

# 業績データ

## 連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科目	連結会計年度	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)	比較増減
		金額	金額	
当期純利益		43,568	353,648	310,079
その他の包括利益				
その他有価証券評価差額金		△49,935	401,468	451,404
繰延ヘッジ損益		△1,016	△716	300
為替換算調整勘定		121,108	84,679	△36,428
退職給付に係る調整額		3,687	20,058	16,370
持分法適用会社に対する持分相当額		△47	997	1,045
その他の包括利益合計		73,795	506,487	432,692
包括利益		117,364	860,136	742,771
(内訳)				
親会社株主に係る包括利益		116,814	857,870	741,056
非支配株主に係る包括利益		550	2,265	1,715

## 3 連結株主資本等変動計算書

### 2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額						非支配株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本 合計	その 他有価証券 評価 差額金	繰 延 ヘ ジ ッ ク 損 益	為 替 換 算 調 整 勘 定	退 職 給 付 に 係 る 調 整 額 累 計	その 他の 包括利益 累計 額 合 計			
当期首残高	70,000	42,923	552,731	665,655	813,682	3,429	△70,973	16,619	762,757	12,159	1,440,572	
会計方針の変更による 累積的影響額			△9,191	△9,191	△7,578		3,190		△4,387	1,168	△12,409	
超インフレによる影響額			△4,225	△4,225							△4,225	
当期首残高(調整後)	70,000	42,923	539,314	652,238	806,104	3,429	△67,782	16,619	758,370	13,328	1,423,937	
当期変動額												
剰余金の配当			△128,960	△128,960							△128,960	
親会社株主に帰属する 当期純利益			41,829	41,829							41,829	
連結範囲の変動			547	547							547	
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					△49,979	△1,016	122,775	3,678	75,457	2,220	77,677	
当期変動額合計	—	—	△86,583	△86,583	△49,979	△1,016	122,775	3,678	75,457	2,220	△8,905	
当期末残高	70,000	42,923	452,731	565,655	756,125	2,412	54,992	20,297	833,827	15,548	1,415,031	

### 2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額						非支配株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本 合計	その 他有価証券 評価 差額金	繰 延 ヘ ジ ッ ク 損 益	為 替 換 算 調 整 勘 定	退 職 給 付 に 係 る 調 整 額 累 計	その 他の 包括利益 累計 額 合 計			
当期首残高	70,000	42,923	452,731	565,655	756,125	2,412	54,992	20,297	833,827	15,548	1,415,031	
超インフレによる影響額			4,059	4,059							4,059	
当期首残高(調整後)	70,000	42,923	456,791	569,715	756,125	2,412	54,992	20,297	833,827	15,548	1,419,091	
当期変動額												
剰余金の配当			△121,140	△121,140							△121,140	
親会社株主に帰属する 当期純利益			351,662	351,662							351,662	
連結範囲の変動			2,734	2,734							2,734	
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		△6		△6							△6	
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					401,501	△716	85,338	20,084	506,208	277	506,485	
当期変動額合計	—	△6	233,257	233,250	401,501	△716	85,338	20,084	506,208	277	739,736	
当期末残高	70,000	42,917	690,048	802,966	1,157,627	1,696	140,330	40,382	1,340,035	15,825	2,158,828	

#### 4 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	連結会計年度	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)	比較増減
		金 額	金 額	
営業活動によるキャッシュ・フロー				
税金等調整前当期純利益		66,864	383,789	316,924
減価償却費		44,934	48,839	3,905
減損損失		148	1,096	948
のれん償却額		25,003	26,726	1,723
支払備金の増減額(△は減少)		244,943	314,338	69,395
責任準備金等の増減額(△は減少)		△562,985	△191,026	371,958
貸倒引当金の増減額(△は減少)		1,588	△151	△1,740
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)		△6,573	△9,050	△2,476
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)		6	△0	△6
賞与引当金の増減額(△は減少)		△4,166	14,029	18,195
役員賞与引当金の増減額(△は減少)		△26	△35	△8
価格変動準備金の増減額(△は減少)		4,480	4,477	△3
利息及び配当金収入		△118,109	△123,863	△5,754
有価証券関係損益(△は益)		△31,374	△44,665	△13,290
支払利息		13,698	11,365	△2,332
為替差損益(△は益)		△13,162	△16,264	△3,102
有形固定資産関係損益(△は益)		△6,742	△128	6,613
持分法による投資損益(△は益)		△990	△1,194	△204
その他資産(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額(△は増加)		1,087,305	△19,779	△1,107,085
その他負債(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額(△は減少)		△593,481	1,080	594,561
その他		119,692	△202,349	△322,042
小計		271,053	197,232	△73,820
利息及び配当金の受取額		107,694	119,776	12,082
利息の支払額		△14,103	△12,071	2,032
法人税等の支払額		△92,811	△14,612	78,199
営業活動によるキャッシュ・フロー		271,832	290,325	18,493
投資活動によるキャッシュ・フロー				
預貯金の純増減額(△は増加)		△9,116	△2,798	6,317
買入金銭債権の取得による支出		△2,187	△1,533	654
買入金銭債権の売却・償還による収入		1,776	1,613	△163
金銭の信託の増加による支出		△3,000	—	3,000
金銭の信託の減少による収入		3,634	18,520	14,885
有価証券の取得による支出		△1,447,132	△2,066,744	△619,611
有価証券の売却・償還による収入		1,526,522	1,538,212	11,689
貸付けによる支出		△240,706	△122,172	118,534
貸付金の回収による収入		195,609	276,267	80,657
その他		△46,822	56,971	103,794
資産運用活動計		△21,423	△301,664	△280,241
営業活動及び資産運用活動計		250,409	△11,338	△261,747
有形固定資産の取得による支出		△20,191	△21,363	△1,171
有形固定資産の売却による収入		13,323	2,307	△11,016
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入		3,329	30,217	26,887
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出		△19,538	—	19,538
その他		△48,023	△43,851	4,171
投資活動によるキャッシュ・フロー		△92,522	△334,354	△241,832
財務活動によるキャッシュ・フロー				
借入金の返済による支出		△15,280	△18	15,262
社債の発行による収入		227,000	—	△227,000
社債の償還による支出		△173,370	△1,662	171,707
債券貸借取引受入担保金の純増減額(△は減少)		21,353	△22,780	△44,134
配当金の支払額		△139,100	△170,460	△31,360
非支配株主への配当金の支払額		△1,081	△1,935	△854
その他		△8,307	△7,986	320
財務活動によるキャッシュ・フロー		△88,786	△204,843	△116,057
現金及び現金同等物に係る換算差額		30,734	38,984	8,249
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		121,258	△209,888	△331,146
現金及び現金同等物の期首残高		947,031	1,069,366	122,334
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		1,075	—	△1,075
現金及び現金同等物の期末残高		1,069,366	859,477	△209,888

業績データ

## 5 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

### 1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社数 53社

主要な会社名

セゾン自動車火災保険株式会社  
 損保ジャパンパートナーズ株式会社  
 Mysurance株式会社  
 Sompo International Holdings Ltd.  
 Endurance Specialty Insurance Ltd.  
 Endurance Assurance Corporation  
 Endurance Worldwide Insurance Limited  
 SI Insurance (Europe), SA  
 Sompo Holdings (Asia) Pte. Ltd.  
 Sompo Sigorta Anonim Sirketi  
 Berjaya Sompo Insurance Berhad  
 Sompo Seguros S.A.  
 損保ジャパンDC証券株式会社

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な会社名

SOMPOシステムズ株式会社

非連結子会社は、総資産、経常収益、当期純損益(持分に見合う額)および利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、いずれも企業集団の財政状態および経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 6社

主要な会社名

キャピタル損害保険株式会社  
 Universal Sompo General Insurance Company Limited

(2) 持分法を適用していない非連結子会社および関連会社(SOMPOシステムズ株式会社他)は、当期純損益(持分に見合う額)および利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 当社は、日本地震再保険株式会社の議決権の26.6%を所有しておりますが、同社事業の公共性を踏まえ、同社の財務および営業または事業の方針の決定に対して重要な影響を与えることができないと判断されることから、関連会社から除いております。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

在外連結子会社の決算日はいずれも12月31日ですが、決算日の差異が3か月を超えていないため、本連結財務諸表の作成にあたっては、連結子会社の決算日現在の財務諸表を使用しております。

なお、連結決算日との差異期間における重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

### 4. 会計方針に関する事項

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

① 売買目的有価証券の評価は、時価法によっております。

なお、売却原価の算定は移動平均法によっております。

② 満期保有目的の債券の評価は、移動平均法に基づく償却原価法によっております。

③ 持分法を適用していない非連結子会社株式および関連会社株式の評価は、移動平均法に基づく原価法によっております。

④ その他有価証券(市場価格のない株式等を除く。)の評価は、時価法によっております。

なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、また、売却原価の算定は移動平均法によっております。

⑤ その他有価証券のうち市場価格のない株式等の評価は、移動平均法に基づく原価法によっております。

⑥ 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法によっております。

- ⑦運用目的および満期保有目的のいずれにも該当しない有価証券の保有を目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、その他有価証券と同じ方法によっております。
- (2) デリバティブ取引の評価基準および評価方法  
 デリバティブ取引の評価は、時価法によっております。
- (3) 重要な減価償却資産の減価償却の方法
- ①有形固定資産(リース資産を除く)  
 有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却は、定額法によっております。
- ②無形固定資産(リース資産を除く)  
 無形固定資産(リース資産を除く)の減価償却は、定額法によっております。  
 海外子会社の買収により取得した無形固定資産については、その効果が及ぶと見積もられる期間にわたり、効果の発現する態様にしたがって償却しております。  
 自社利用ソフトウェアの減価償却は、利用可能期間に基づく定額法によっております。
- (4) 重要な引当金の計上基準
- ①貸倒引当金  
 当社および国内保険連結子会社は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、資産の自己査定基準および償却・引当基準に基づき、次のとおり計上しております。  
 破産、特別清算、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している債務者に対する債権および実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収が可能と認められる額等を控除し、その残額を引き当てております。  
 今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を引き当てております。  
 上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率等を債権額に乗じた額を引き当てております。  
 また、すべての債権は資産の自己査定基準に基づき、各所管部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署等が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。  
 その他の連結子会社は、主に個別の債権について回収可能性を検討し、貸倒見積額を計上しております。
- ②役員退職慰労引当金  
 国内連結子会社は、役員の退職慰労金(年金を含む)の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。
- ③賞与引当金  
 従業員賞与に充てるため、期末における支給見込額を基準に計上しております。
- ④役員賞与引当金  
 役員賞与に充てるため、期末における支給見込額を基準に計上しております。
- ⑤価格変動準備金  
 当社および国内保険連結子会社は、株式等の価格変動による損失に備えるため、保険業法第115条の規定に基づき計上しております。
- (5) 退職給付に係る会計処理の方法
- ①退職給付見込額の期間帰属方法  
 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、主として給付算定式基準によっております。
- ②数理計算上の差異の費用処理方法  
 数理計算上の差異は、主として、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10~11年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理しております。
- (6) 重要なヘッジ会計の方法  
 長期の保険契約等に係る金利変動リスクをヘッジする目的で実施する金利スワップ取引については、「保険業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第26号)に基づく繰延ヘッジを適用しております。ヘッジ対象となる保険負債とヘッジ手段である金利スワップ取引を一定の残存期間ごとにグルーピングのうえヘッジ指定を行っており、ヘッジに高い有効性があるため、ヘッジ有効性の評価を省略しております。  
 保有する株式に係る将来の株価変動リスクをヘッジする目的で行う株式スワップ取引については時価ヘッジを適用しております。

為替変動に伴う外貨建資産等の為替変動リスクをヘッジする目的で実施する為替予約取引、通貨オプション取引および通貨スワップ取引については原則として時価ヘッジを適用しております。外貨建予定取引の円貨建キャッシュ・フローを固定する目的で実施している為替予約取引の一部については、繰延ヘッジを適用しております。

なお、ヘッジ有効性については、原則としてヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とを定期的に比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

ただし、ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件が同一でありヘッジに高い有効性があることが明らかなものについては、ヘッジ有効性の評価を省略しております。

(7) 保険契約に関する会計処理

当社および国内保険連結子会社における保険料、支払備金および責任準備金等の保険契約に関する会計処理については、保険業法等の法令等の定めによっております。

(8) のれんの償却方法および償却期間

のれんについては、発生年度以後10～20年間で均等償却しております。

ただし、少額のものについては一括償却しております。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から満期日または償還日までの期間が3か月以内の定期預金等の短期投資からなっております。

(10) 消費税等の会計処理

当社および国内連結子会社の消費税等の会計処理は、主として税抜方式によっております。

ただし、当社および国内保険連結子会社の損害調査費、営業費及び一般管理費等の費用は税込方式によっております。

なお、資産に係る控除対象外消費税等はその他資産に計上し、5年間で均等償却しております。

## 6 重要な会計上の見積り

### 1. のれんの減損

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
のれん	118,746	100,212

(2) 会計上の見積りの内容について連結財務諸表利用者の理解に資するその他の情報

#### ① 算出方法

のれんは、発生したのれんごとにその効果の及び期間を測定し、償却期間(20年以内)にわたって均等償却しております。ただし、重要性が乏しいのれんについては、発生連結会計年度に一括償却しております。

のれんの減損の兆候の把握については、「固定資産の減損に係る会計基準」および「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第6号)に基づき、決算期末に行うほか随時把握に努めており、のれんを含む資産グループにおいて、市場環境を含む経営環境が著しく悪化(例えば、買収時の事業計画からの著しい下方乖離や直近の業績および将来の見通しの悪化など)した場合などにおいて、減損の兆候があるものとしております。

減損の兆候が発生したのれんを含む資産グループについては、残存償却年数の期間で当該資産グループから生じる割引前将来キャッシュ・フローの総額を見積り、これが帳簿価額を下回る場合には、減損損失を認識しております。

減損損失を認識すべきであると判定されたのれんを含む資産グループについては、割引前将来キャッシュ・フローを割引率で割り引いた使用価値などの回収可能価額を算出し、これが帳簿価額を下回る金額を減損損失として計上することとしております。

#### ② 翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

減損の兆候が発生し、将来の事業計画を作成するうえで、著しく下方修正する必要のある事象(海外保険事業における正味収入保険料や損害率等の見積りの仮定に与える重要な事象など)が生じた結果、割引前将来キャッシュ・フローが大幅に下落した場合には、減損損失が発生する可能性があります。

### 2. 支払備金

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
支払備金	2,292,144	2,683,340

(2) 会計上の見積りの内容について連結財務諸表利用者の理解に資するその他の情報

当社および国内保険連結子会社は、保険業法第117条、同施行規則第72条および第73条の規定ならびに平成10年大蔵省告示第234号に基づき、支払備金を積み立てております。海外保険連結子会社は、所在地国の法規制等に基づき、支払備金を積み立てております。

#### ① 算出方法

普通支払備金については、支払事由の発生の報告があった保険契約について、支払事由の報告内容、保険契約の内容および損害調査内容等に基づき個別に支払見込額を見積もっており、また、既発生未報告損害支払備金(以下「IBNR備金」という。)については、まだ支払事由の発生の報告を受けていないが保険契約に規定する支払事由が既に発生したと認められるものについて、保険種類等の計算単位ごとに、主として統計的手法を用いて見積もっております。なお、大規模自然災害などの個別性の高い損害については、個別にIBNR備金を見積もっております。

#### ② 翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

法令等および海外の法規制等の改正、裁判の判例の動向、インフレおよび為替相場などの変動要因により、保険金等の支払額や支払備金の計上額が当初の見積りから変動する可能性があります。

なお、IBNR備金は、過去の実績等を勘案し、適正な保険数理に基づき積み立てておりますが、支払事由の発生について未報告であること等に起因する不確実性を有しております。

## 7 会計方針の変更

### 国際財務報告基準(IFRS)第17号「保険契約」

国際財務報告基準(IFRS)を適用している海外連結子会社は、当連結会計年度の期首から、IFRS第17号「保険契約」を適用しております。これにより、貨幣の時間価値、保険契約から生じるキャッシュ・フローの金融リスクおよび保険契約から生じるキャッシュ・フローの不確実性の影響を反映するよう保険契約準備金が測定されております。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の連結財務諸表になっております。この結果、遡及適用前と比較して、前連結会計年度の経常費用が81,743百万円減少し、経常利益および税金等調整前当期純利益がそれぞれ81,743百万円増加しております。また、前連結会計年度のその他資産が1,109,401百万円、その他負債が515,938百万円、保険契約準備金が643,254百万円減少しております。前連結会計年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより利益剰余金の前期首残高は16,769百万円減少しております。

### 国際財務報告基準(IFRS)第9号「金融商品」

国際財務報告基準(IFRS)を適用している海外連結子会社は、当連結会計年度の期首から、IFRS第9号「金融商品」を適用しております。これにより、金融商品の分類および測定方法等を変更しております。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の連結財務諸表になっております。この結果、遡及適用前と比較して、前連結会計年度の経常収益が81,265百万円減少、経常費用が73,503百万円増加し、経常利益および税金等調整前当期純利益がそれぞれ154,768百万円減少しております。また、前連結会計年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより利益剰余金の前期首残高は7,578百万円増加し、その他有価証券評価差額金の前期首残高が7,578百万円減少しております。

## 8 連結貸借対照表関係

1. 有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
350,120	369,548

2. 有形固定資産の圧縮記帳額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
11,913	11,909

3. 非連結子会社および関連会社の株式等は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
有価証券(株式)	21,204	23,232
有価証券(出資金)	4,476	4,140

4. 保険業法に基づく債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権ならびに貸付条件緩和債権の金額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	30	17
危険債権額	18	15
三月以上延滞債権額	34	26
貸付条件緩和債権額	—	—
合計	82	59

(注) 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始または再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権であります。

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しない債権であります。

三月以上延滞債権とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸付金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権ならびに危険債権に該当しないものであります。

貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権ならびに三月以上延滞債権に該当しないものであります。

5. 担保に供している資産および担保付債務は次のとおりであります。

担保に供している資産

(単位：百万円)

	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
預貯金	30,405	32,631
有価証券	441,295	532,626
有形固定資産	928	887
合計	472,630	566,144

(注) 上記は、借入等の担保のほか、海外営業のための供託資産として差し入れている有価証券等であります。

担保付債務

(単位：百万円)

	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
その他負債(債券貸借取引受入担保金)	177,859	155,078
その他負債(借入金)	77	59
合計	177,937	155,138

なお、上記有価証券には、現金担保付有価証券貸借取引により差し入れた有価証券が含まれており、その金額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
171,582	150,740

6. 有価証券のうち消費貸借契約により貸し付けているものの金額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
322,662	323,162

## 9 連結損益計算書関係

事業費の主な内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
代理店手数料等	593,741	606,709
給与	225,208	236,632

(注) 事業費は連結損益計算書における損害調査費、営業費及び一般管理費ならびに諸手数料及び集金費の合計であります。

## 10 連結包括利益計算書関係

その他の包括利益に係る組替調整額および税効果額

(単位：百万円)

	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	△34,379	607,876
組替調整額	△34,960	△51,513
税効果調整前	△69,339	556,362
税効果額	19,403	△154,893
その他有価証券評価差額金	△49,935	401,468
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	3,662	△107
組替調整額	△1,060	△886
資産の取得原価調整額	△4,012	—
税効果調整前	△1,409	△993
税効果額	393	277
繰延ヘッジ損益	△1,016	△716
為替換算調整勘定		
当期発生額	121,108	84,679
退職給付に係る調整額		
当期発生額	5,905	29,372
組替調整額	△826	△1,788
税効果調整前	5,079	27,583
税効果額	△1,392	△7,525
退職給付に係る調整額	3,687	20,058
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	△6	1,167
組替調整額	△41	△170
持分法適用会社に対する持分相当額	△47	997
その他の包括利益合計	73,795	506,487

## 11 連結株主資本等変動計算書関係

### 2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

#### 1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	2022年度期首 株式数(千株)	2022年度 増加株式数(千株)	2022年度 減少株式数(千株)	2022年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	984,055	—	—	984,055
合計	984,055	—	—	984,055

(注) 自己株式については、該当事項はありません。

#### 2. 配当に関する事項

##### (1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年3月24日 取締役会	普通株式	128,960	131.04	—	2023年3月31日

(2) 基準日が2022年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が2023年度となるもの  
該当事項はありません。

### 2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

#### 1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	2023年度期首 株式数(千株)	2023年度 増加株式数(千株)	2023年度 減少株式数(千株)	2023年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	984,055	—	—	984,055
合計	984,055	—	—	984,055

(注) 自己株式については、該当事項はありません。

#### 2. 配当に関する事項

##### (1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年11月17日 取締役会	普通株式	41,500	42.17	—	2023年11月17日
2024年3月26日 取締役会	普通株式	79,640	80.93	—	2024年3月31日

(2) 基準日が2023年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が2024年度となるもの  
該当事項はありません。

## 12 連結キャッシュ・フロー計算書関係

## 1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

(単位：百万円)

	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
現金及び預貯金	1,044,759	891,048
買現先勘定	69,999	14,999
買入金銭債権	21,915	21,686
有価証券	5,918,870	7,275,789
預入期間が3か月を超える預貯金	△75,655	△82,049
現金同等物以外の買入金銭債権	△20,366	△19,207
現金同等物以外の有価証券	△5,890,157	△7,242,788
現金及び現金同等物	1,069,366	859,477

## 2. 重要な非資金取引の内容

該当事項はありません。

## 3. 投資活動によるキャッシュ・フローには、保険事業に係る資産運用業務から生じるキャッシュ・フローを含んでおります。

## 13 リース取引関係

## オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

区分	連結会計年度	2021年度 (2022年3月31日)	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
未経過リース料				
借主側				
1年内		1,374	648	1,052
1年超		465	1,909	2,764
合計		1,839	2,557	3,816
貸主側				
1年内		324	278	261
1年超		1,497	1,129	906
合計		1,821	1,407	1,168

## 14 退職給付関係

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出年金制度のほか、確定給付型の制度として、退職一時金制度ならびに既年金受給者および受給待期者を対象とする規約型企業年金制度および自社運営の退職年金制度を設けております。また、退職給付信託の設定を行っております。

国内連結子会社では、確定拠出年金制度のほか、確定給付型の制度として非積立型の退職一時金制度を設けております。

一部の在外連結子会社は、確定拠出型および確定給付型の退職給付制度を設けております。

なお、一部の退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債および退職給付費用を計算しております。

## 2. 確定給付制度

### (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：百万円)

項目	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
退職給付債務の期首残高	164,355	152,840
勤務費用	8,858	7,989
利息費用	1,126	1,852
数理計算上の差異の発生額	△5,095	△4,135
退職給付の支払額	△16,828	△17,566
その他	423	185
退職給付債務の期末残高	152,840	141,166

(注) 簡便法により計算した退職給付費用を「勤務費用」に計上しております。

### (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

(単位：百万円)

項目	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
年金資産の期首残高	100,803	101,256
期待運用収益	314	398
数理計算上の差異の発生額	1,083	26,802
事業主からの拠出額	285	660
退職給付の支払額	△1,622	△1,693
その他	392	360
年金資産の期末残高	101,256	127,785

### (3) 退職給付債務および年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債および退職給付に係る資産の調整表

(単位：百万円)

項目	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	150,410	138,836
年金資産	△101,256	△127,785
非積立型制度の退職給付債務	49,153	11,050
アセット・シーリングによる調整額	2,430	2,330
連結貸借対照表に計上された純額	501	636
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	52,085	14,017
退職給付に係る負債	52,114	14,031
退職給付に係る資産	△29	△14
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	52,085	14,017

### (4) 退職給付費用およびその内訳項目の金額

(単位：百万円)

項目	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
勤務費用	8,858	7,989
利息費用	1,126	1,852
期待運用収益	△314	△398
数理計算上の差異の費用処理額	△824	△1,744
過去勤務費用の費用処理額	△4	△0
その他	△13	—
確定給付制度に係る退職給付費用	8,829	7,698

(注) 簡便法により計算した退職給付費用を「勤務費用」に計上しております。

## (5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位:百万円)

項目	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
数理計算上の差異	△5,079	△27,583
合計	△5,079	△27,583

## (6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位:百万円)

項目	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
未認識数理計算上の差異	△28,188	△55,754
合計	△28,188	△55,754

## (7) 年金資産に関する事項

### ① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は次のとおりであります。

(単位:%)

項目	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
債券	24	22
株式	71	72
共同運用資産	1	1
生命保険一般勘定	2	1
現金および預金	0	2
その他	2	2
合計	100	100

### ② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在および予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在および将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎は次のとおりであります。

(単位:%)

項目	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
割引率	当社	1.1
	在外連結子会社	2.9~8.9
長期期待運用収益率	当社	0.0~1.5
	在外連結子会社	8.9

## 3. 確定拠出制度

当社および連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、2022年度10,217百万円、2023年度11,750百万円であります。

## 15 税効果会計関係

### 1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：百万円)

区 分	連結会計年度	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
繰延税金資産			
責任準備金等		207,936	221,530
税務上無形固定資産		34,287	91,884
支払備金		32,533	45,615
税務上の繰越欠損金(注2)		18,545	29,858
価格変動準備金		27,872	29,121
その他		106,146	79,973
繰延税金資産小計		427,322	497,983
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注2)		△15,247	△24,913
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額		△27,839	△26,742
評価性引当額小計(注1)		△43,087	△51,655
繰延税金資産合計		384,235	446,328
繰延税金負債			
その他有価証券評価差額金		△283,685	△438,658
その他		△26,537	△44,267
繰延税金負債合計		△310,222	△482,925
繰延税金資産(負債)の純額		74,012	△36,597

(注) 1. 評価性引当額が8,568百万円増加しています。この増加の主な内容は、連結子会社Sompo International Holdings Ltd. およびその傘下のEndurance Specialty Insurance Ltd. にて、パミュータ法人税法導入に伴い税務上の繰越欠損金に係る繰延税金資産11,350百万円を新たに認識し、その全額を評価性引当額としたことによるものであります。

2. 税務上の繰越欠損金およびその繰延税金資産の繰越期限別の金額

#### 2022年度(2023年3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(*1)	1,948	1,476	1,653	1,458	—	12,007	18,545
評価性引当額	△1,794	△1,476	△1,653	△1,458	—	△8,864	△15,247
繰延税金資産	154	—	—	—	—	3,143	(*2) 3,297

(\*1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(\*2) 税務上の繰越欠損金18,545百万円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産3,297百万円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込みにより回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

#### 2023年度(2024年3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(*3)	1,475	1,629	1,446	—	3,298	22,009	29,858
評価性引当額	△1,475	△1,629	△1,446	—	△1,293	△19,069	△24,913
繰延税金資産	—	—	—	—	2,005	2,939	(*4) 4,944

(\*3) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(\*4) 税務上の繰越欠損金29,858百万円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産4,944百万円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込みにより回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

(単位：%)

区 分	連結会計年度	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
国内の法定実効税率 (調整)		27.9	27.9
バミューダ法人税法導入		—	△17.7
子会社税率差		4.7	△4.7
評価性引当額の増減		△3.7	2.7
のれん償却額		10.4	1.9
受取配当金等の益金不算入額		△8.1	△1.9
その他		3.6	△0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率		34.8	7.9

## 3. 法人税および地方法人税の会計処理またはこれらに関する税効果会計の会計処理

当社および国内連結子会社は、グループ通算制度を適用しており、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従って、法人税および地方法人税の会計処理またはこれらに関する税効果会計の会計処理ならびに開示を行っております。

## 4. 「7 会計方針の変更」に記載のとおり、国際財務報告基準(IFRS)を適用している海外連結子会社は、IFRS第17号「保険契約」およびIFRS第9号「金融商品」を適用しております。当該会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については、遡及適用後の数値を記載しております。

## 16 セグメント情報等

### 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社ならびに子会社および関連会社は、親会社であるSOMPOホールディングス株式会社の経営方針のもと、それぞれの事業における戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、当社ならびに個々の子会社および関連会社を最小単位とした事業別のセグメントから構成されており、「国内損害保険事業」および「海外保険事業」の2つを報告セグメントとしております。なお、報告セグメントに含まれていない確定拠出年金事業等は「その他」の区分としております。

「国内損害保険事業」は、主として日本国内の損害保険引受業務、資産運用業務およびそれらに関連する業務を、「海外保険事業」は、主として海外の保険引受業務および資産運用業務をそれぞれ行っております。

### 2. 報告セグメントごとの売上高、利益または損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。報告セグメントの利益または損失は親会社株主に帰属する当期純利益をベースとした数値であります。

セグメント間の内部収益は、第三者間取引価格等に基づいております。

「7 会計方針の変更」に記載のとおり、国際財務報告基準(IFRS)を適用している海外連結子会社は、IFRS第17号「保険契約」およびIFRS第9号「金融商品」を適用しております。当該会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度のセグメント情報は、遡及適用後の数値に変更されております。これに伴い、前連結会計年度の「海外保険事業」におけるセグメント利益は64,743百万円減少しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益または損失、資産その他の項目の金額に関する情報  
2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注2)	合 計	調整額 (注3)	連結財務 諸表計上額 (注4)
	国内損害 保険事業	海外 保険事業	計				
売上高(注1)							
外部顧客への売上高	2,290,596	1,386,039	3,676,636	2,933	3,679,569	280,204	3,959,774
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	553	553	△553	—
計	2,290,596	1,386,039	3,676,636	3,486	3,680,122	279,651	3,959,774
セグメント利益または損失(△)	58,001	△16,711	41,289	539	41,829	—	41,829
セグメント資産	6,028,789	2,938,963	8,967,753	6,553	8,974,306	—	8,974,306
その他の項目							
減価償却費	26,411	18,143	44,555	379	44,934	—	44,934
のれんの償却額	—	25,003	25,003	—	25,003	—	25,003
利息及び配当金収入	117,480	640	118,121	0	118,121	△11	118,109
支払利息	7,592	6,112	13,705	—	13,705	△7	13,698
持分法投資利益	83	877	960	29	990	—	990
特別利益(注5)	5,854	3,099	8,954	—	8,954	—	8,954
特別損失(注6)	6,228	610	6,839	1	6,841	—	6,841
(減損損失)	(148)	(—)	(148)	(—)	(148)	(—)	(148)
税金費用	16,852	6,219	23,071	224	23,295	—	23,295
持分法適用会社への投資額	1,564	16,598	18,163	734	18,897	—	18,897
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	67,009	7,443	74,452	459	74,911	—	74,911

- (注) 1. 売上高は、国内損害保険事業にあつては正味収入保険料、海外保険事業にあつては正味収入保険料および生命保険料、「その他」および連結財務諸表計上額にあつては経常収益の金額を記載しております。
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、確定拠出年金事業等であります。
3. 売上高の調整額は、正味収入保険料または生命保険料以外の国内損害保険事業および海外保険事業に係る経常収益280,204百万円、セグメント間取引消去△553百万円であります。
4. セグメント利益または損失は、連結損益計算書の親会社株主に帰属する当期純利益と調整を行っております。
5. 国内損害保険事業における特別利益は、固定資産処分益5,854百万円であります。また、海外保険事業における特別利益は、固定資産処分益3,099百万円であります。
6. 国内損害保険事業における特別損失の主なものは、価格変動準備金繰入額4,480百万円であります。

# 業績データ

2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注2)	合計	調整額 (注3)	連結財務 諸表計上額 (注4)
	国内損害 保険事業	海外 保険事業	計				
売上高(注1)							
外部顧客への売上高	2,247,927	1,445,302	3,693,230	3,384	3,696,614	615,371	4,311,986
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	560	560	△560	—
計	2,247,927	1,445,302	3,693,230	3,944	3,697,175	614,811	4,311,986
セグメント利益	113,110	237,699	350,809	852	351,662	—	351,662
セグメント資産	6,431,981	3,514,316	9,946,297	7,736	9,954,033	—	9,954,033
その他の項目							
減価償却費	30,668	17,837	48,506	333	48,839	—	48,839
のれんの償却額	—	26,726	26,726	—	26,726	—	26,726
利息及び配当金収入	123,127	746	123,874	0	123,874	△11	123,863
支払利息	6,519	4,853	11,373	—	11,373	△8	11,365
持分法投資利益	104	1,045	1,150	44	1,194	—	1,194
特別利益	1,066	—	1,066	—	1,066	△97	969
特別損失(注5)	5,561	1,106	6,667	0	6,668	△97	6,571
(減損損失)	(—)	(1,096)	(1,096)	(—)	(1,096)	(—)	(1,096)
税金費用	38,442	△8,635	29,806	334	30,141	—	30,141
持分法適用会社への投資額	1,673	19,179	20,853	853	21,706	—	21,706
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	60,080	10,989	71,069	978	72,047	—	72,047

- (注) 1. 売上高は、国内損害保険事業にあっては正味収入保険料、海外保険事業にあっては正味収入保険料および生命保険料、「その他」および連結財務諸表計上額にあっては経常収益の金額を記載しております。
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、確定拠出年金事業等であります。
3. 売上高の調整額は、正味収入保険料または生命保険料以外の国内損害保険事業および海外保険事業に係る経常収益615,371百万円、セグメント間取引消去△560百万円であります。
4. セグメント利益は、連結損益計算書の親会社株主に帰属する当期純利益と調整を行っております。
5. 国内損害保険事業における特別損失の主なもの、価格変動準備金繰入額4,575百万円であります。

## (関連情報)

2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

### 1. 製品およびサービスごとの情報

(単位:百万円)

	火災	海上	傷害	自動車	自動車損害 賠償責任	その他	合計
正味収入保険料	627,013	117,017	159,745	1,263,943	211,113	1,291,883	3,670,717

### 2. 地域ごとの情報

#### (1) 売上高

(単位:百万円)

日本	米国	その他	合計
2,230,182	827,396	619,057	3,676,636

- (注) 1. 売上高は正味収入保険料および生命保険料の合計を記載しております。
2. 主に顧客の所在地を基礎とした社内管理区分により、国または地域に分類しております。

#### (2) 有形固定資産

(単位:百万円)

日本	海外	合計
232,840	36,917	269,758

### 3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

1. 製品およびサービスごとの情報

(単位:百万円)

	火災	海上	傷害	自動車	自動車損害賠償責任	その他	合計
正味収入保険料	639,487	132,078	159,216	1,281,294	195,761	1,282,580	3,690,419

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位:百万円)

日本	米国	その他	合計
2,189,515	836,164	667,550	3,693,230

(注) 1. 売上高は正味収入保険料および生命保険料の合計を記載しております。  
2. 主に顧客の所在地を基礎とした社内管理区分により、国または地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位:百万円)

日本	海外	合計
237,428	38,638	276,066

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

(報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	国内損害保険事業	海外損害保険事業	計			
減損損失	148	—	148	—	—	148

2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	国内損害保険事業	海外損害保険事業	計			
減損損失	—	1,096	1,096	—	—	1,096

(報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	国内損害保険事業	海外損害保険事業	計			
当期償却額	—	25,003	25,003	—	—	25,003
当期末残高	—	118,746	118,746	—	—	118,746

2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	国内損害保険事業	海外損害保険事業	計			
当期償却額	—	26,726	26,726	—	—	26,726
当期末残高	—	100,212	100,212	—	—	100,212

(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

該当事項はありません。

## 17 関連当事者情報

## 1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社および主要株主(会社等の場合に限る。)等

## 2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

種類	会社等の名称 または氏名	所在地	資本金 または 出資金 (百万円)	事業の内容 または職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	SOMPO ホールディングス 株式会社	東京都 新宿区	100,045	保険持株 会社	(被所有) 直接100.0	経営管理 金銭貸借関係 役員の兼任	資金の貸付 利息の受取	122,000 1	貸付金 その他資産	122,000 1

(注) 取引条件および取引条件の決定方針等

主として期限一括返済方式によるものであり、利率は市場金利に基づき一般の取引条件と同様に決定しております。なお、担保は受け入れておりません。

## 2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

記載すべき重要なものはありません。

## 2. 親会社または重要な関連会社に関する注記

## (1) 親会社情報

SOMPOホールディングス株式会社(東京証券取引所に上場)

## (2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

## 18 1株当たり情報

	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
1株当たり純資産額	1,422円15銭	2,177円72銭
1株当たり当期純利益	42円50銭	357円36銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	41,829	351,662
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	41,829	351,662
普通株式の期中平均株式数(千株)	984,055	984,055

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	1,415,031	2,158,828
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	15,548	15,825
(うち非支配株主持分(百万円))	(15,548)	(15,825)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	1,399,483	2,143,002
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	984,055	984,055

4. 「7 会計方針の変更」に記載のとおり、国際財務報告基準(IFRS)を適用している海外連結子会社は、IFRS第17号「保険契約」およびIFRS第9号「金融商品」を適用しております。この結果、前連結会計年度の1株当たり純資産額が49円68銭増加し、1株当たり当期純利益が65円79銭減少しております。

## 19 重要な後発事象

該当事項はありません。

## 20 会計監査

1. 当社は、会社法第444条第4項の規定に基づき、2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)および2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)の連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書および連結注記表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受け、監査報告書を受領しています。
2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)および2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)の連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記および連結附属明細表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受け、監査報告書を受領しています。

## 21 保険業法に基づく債権

(単位:百万円)

区分	年度	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権		30	17
危険債権		18	15
三月以上延滞債権		34	26
貸付条件緩和債権		—	—
正常債権		715,314	581,406
合計		715,396	581,465

(注) 各債権の意義は次のとおりです。

- (1) 破産更生債権及びこれらに準ずる債権  
破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始または再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権です。
- (2) 危険債権  
危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しない債権です。
- (3) 三月以上延滞債権  
三月以上延滞債権とは、元本または利息の支払が、約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸付金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権ならびに危険債権に該当しない債権です。
- (4) 貸付条件緩和債権  
貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権ならびに三月以上延滞債権に該当しない債権です。
- (5) 正常債権  
債務者の財政状態および経営成績に特に問題がないものとして、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権ならびに貸付条件緩和債権以外のものに区分される債権です。

## 2. 有価証券等の情報

### 1 金融商品関係

#### 1. 金融商品の状況に関する事項

##### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は「純資産価値の拡大を図るために、適切なリスク管理を講じながら、資産運用を行う」ことを基本方針として、保険会社の運用資金の性格をふまえ、安全性・流動性・収益性を総合的に検討しながら、リスク管理に十分留意した資産運用を行っております。株式・債券等への投資や融資などの伝統的な手法に加え、オルタナティブ投資など、国内外でリスクの分散と運用手法の多様化を図りつつ、中長期的な収益確保を目指しております。

また、積立保険のような長期の保険負債にかかわる資産運用を適切に行うため、ALM(資産・負債の総合管理)に基づく運用手法により、将来の満期返戻金などの支払いに向けた安定的な収益確保を図っております。

連結子会社では、運用する資産の規模・性格をふまえた上で、中長期的な収益獲得を目指す一方、資産の健全性を損なうことのないよう十分留意した上で、適切に資産運用を行っております。

なお、当社は、財務基盤を更に強固なものとする観点から、主要格付機関から一定の資本性が認められる劣後債(ハイブリッド・ファイナンス)の発行により、実質的な自己資本の増強を図っております。

##### (2) 金融商品の内容およびそのリスク

当社は、主に保険取引先企業との中長期的な友好関係の維持の観点などから、株式を多く保有しておりますが、株式は一般的に価格の変動性が高く、今後の株価の下落によっては、売却損・評価損計上による利益減少や、評価差額金の減少により純資産が減少するなど、価格変動リスクにさらされております。

資産運用リスクの分散を図るため、海外の債券や株式等への投資を行っており、各々の現地通貨における資産価値の変動リスクに加えて、為替レートの変動によっては、これらの資産の価値および投資収益に重要な影響を及ぼす可能性があり、為替変動リスクにさらされております。

債券、貸付金等の固定金利資産を保有していることから、金利が上昇した場合には資産価値が減少する可能性があり、金利変動リスクにさらされております。

債券、株式等の有価証券を保有していることから、市場の混乱等により市場において取引ができなかったり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされるリスク(流動性リスク)にさらされております。

また、当社が保有している有価証券・貸付金等は、発行体・貸付先の信用力の低下や破綻等により、価値が減少する、あるいは利息や元本の回収が不能になるなど、信用リスクにさらされております。

連結子会社では、主に預金や国債等の債券を保有しており、信用リスクや金利変動リスクにさらされております。また、一部の連結子会社では株式や外貨建債券等を保有しており、今後の株価の下落や為替レートの変動によっては、売却損・評価損計上による利益減少や、評価差額金の減少により純資産が減少するなど、価格変動リスクまたは為替変動リスクにさらされております。

当社が発行している劣後債については、発行から一定期間経過以降の利払いが変動金利となるため、金利変動リスクにさらされております。

当社および一部の連結子会社では、主として資産運用リスクをヘッジする目的で、デリバティブ取引を利用しており、また、ヘッジ目的以外にも、一定の取扱高の範囲内で運用収益を獲得する等の目的で、デリバティブ取引を利用しております。

当社グループでは主に以下のデリバティブ取引を行っております。

- ・通貨関連：為替予約取引、通貨スワップ取引、通貨オプション取引
- ・金利関連：金利スワップ取引、金利先物取引、金利オプション取引
- ・株式関連：株式スワップ取引、株価指数先物取引、株価指数オプション取引等
- ・債券関連：債券先物取引、債券先物オプション取引、債券先渡取引
- ・その他：クレジットデリバティブ取引、天候デリバティブ取引、地震デリバティブ取引、パンデミックデリバティブ取引、ロス・ディベロップメント・カバー取引等

これらは主に為替相場の変動によるリスク、市場金利の変動によるリスク、株価の変動によるリスク、債券価格の変動によるリスク、取引対象物の信用リスク等を有しておりますが、保有現物資産等に係る当該市場リスクを効果的に減殺しております。

なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引については、「1. 連結財務諸表等 5 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計方針に関する事項 (6) 重要なヘッジ会計の方法」に記載しております。

当社および連結子会社は、取引対象物の価格変動に対する当該取引の時価の変動率が大きい取引(レバレッジ取引)を利用しておりません。

また、当社および一部の連結子会社は市場取引以外のデリバティブ取引を利用してありますが、これらは取引相手先の倒産等による契約不履行に係るリスク(信用リスク)を有しております。ただし、大半の取引先を信用度の高い金融機関に限定するとともに、CSA契約に基づく担保を取得する等の方法により、契約不履行に係るリスクの減殺に努めております。

### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社は、グループの企業価値の最大化を目的とする戦略的リスク経営(ERM)の観点から、リスクを適切に把握、評価、コントロールし、リスク発現の際に的確に対応できる態勢を次のとおり整備しております。

親会社であるSOMPOホールディングス株式会社が定める「SOMPOグループERM基本方針」をふまえた規程を制定しているほか、経営陣がリスクの状況を把握したうえで、適切な意思決定を行うために、ERM委員会等を設置しております。また、経営に重大な影響を及ぼしうる各種リスクについてリスクを定性・定量の両面から評価し、適切にコントロールするリスク管理部門を定め、リスク管理態勢を整備・推進するための部署としてリスク管理部を設置しております。

当社は、資産運用リスクモデルにより、市場リスク、信用リスクおよび不動産投資リスクに加えて、積立保険などの保険負債について、資産運用利回りが予定利率を下回るリスクも含めて一元的に管理し、資産情報を日次で把握し、資産運用リスク量を計測しております。また、過去に発生した最大規模の市況下落やデフォルト率などを想定し、その影響度を測定するストレス・テストを行い、リスク管理に活用しております。

信用供与先の管理としては、個別取引ごとに厳正な与信審査を実施するとともに、特定与信先へのリスク集積回避のため、与信先ごとのリミット管理を行っております。

流動性リスクについては、日々の資金繰り管理のほかに、巨大災害発生など、流動性リスク・シナリオ発現に伴う保険金支払などの資金流出額を予想し、それに対応できる流動性資産が十分に確保されるように管理しております。

### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、「4 デリバティブ取引関係」注記における「契約額等」は、デリバティブ取引における契約額または想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスク量や信用リスク量を表すものではありません。

## 2. 金融商品の時価等および時価のレベルごとの内訳等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額、レベルごとの時価は、次のとおりであります。

なお、市場価格のない株式等および組合出資金等については、次表に含めておりません((注)3参照)。

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性および重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

「1. 連結財務諸表等 7 会計方針の変更」に記載のとおり、国際財務報告基準(IFRS)を適用している海外連結子会社は、IFRS第17号「保険契約」およびIFRS第9号「金融商品」を適用しております。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については、遡及適用後の数値を記載しております。

# 業績データ

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

2022年度(2023年3月31日)

(単位: 百万円)

	連結貸借対照表計上額			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
買入金銭債権	—	21,915	—	21,915
金銭の信託	—	21,235	—	21,235
有価証券				
売買目的有価証券				
外国証券	400,399	1,442,405	82,792	1,925,597
その他有価証券				
公社債	512,262	527,252	—	1,039,514
株式	1,230,733	—	—	1,230,733
外国証券	569,569	98,731	592,368	1,260,668
その他	66,482	1,780	155,411	223,674
資産計	2,779,445	2,113,321	830,572	5,723,339
デリバティブ取引(※1)(※2)				
通貨関連	—	△5,564	—	△5,564
金利関連	—	3,261	—	3,261
株式関連	△1	—	—	△1
債券関連	—	7,694	—	7,694
その他	△1	△27	△265	△295
デリバティブ取引計	△3	5,363	△265	5,095

(※1) その他資産およびその他負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、△で表示しております。

(※2) デリバティブ取引のうち、ヘッジ会計を適用している取引の連結貸借対照表計上額は△1,306百万円であります。

2023年度(2024年3月31日)

(単位: 百万円)

	連結貸借対照表計上額			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
買入金銭債権	—	21,686	—	21,686
金銭の信託	—	4,842	—	4,842
有価証券				
売買目的有価証券				
外国証券	138,203	2,316,202	112,674	2,567,080
その他有価証券				
公社債	530,397	507,733	—	1,038,130
株式	1,651,011	—	—	1,651,011
外国証券	708,083	99,045	673,043	1,480,173
その他	55,515	1,498	219,728	276,742
資産計	3,083,211	2,951,008	1,005,446	7,039,666
デリバティブ取引(※1)(※2)				
通貨関連	—	△10,604	—	△10,604
金利関連	—	2,352	—	2,352
株式関連	—	△440	—	△440
その他	—	△28	△584	△613
デリバティブ取引計	—	△8,720	△584	△9,305

(※1) その他資産およびその他負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、△で表示しております。

(※2) デリバティブ取引のうち、ヘッジ会計を適用している取引の連結貸借対照表計上額は△6,685百万円であります。

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

現金及び預貯金、買現先勘定、債券貸借取引受入担保金は、短期間(1年以内)のものが大半を占めており、時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

2022年度(2023年3月31日)

(単位:百万円)

	時価				連結貸借対照表計上額	差額
	レベル1	レベル2	レベル3	合計		
貸付金(※)	—	—	571,917	571,917	563,962	7,954
資産計	—	—	571,917	571,917	563,962	7,954
社債	—	605,519	—	605,519	609,051	△3,532
負債計	—	605,519	—	605,519	609,051	△3,532

(※) 貸付金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金31百万円を控除しております。

2023年度(2024年3月31日)

(単位:百万円)

	時価				連結貸借対照表計上額	差額
	レベル1	レベル2	レベル3	合計		
貸付金(※)	—	—	414,868	414,868	408,690	6,177
資産計	—	—	414,868	414,868	408,690	6,177
社債	—	613,365	—	613,365	612,349	1,016
負債計	—	613,365	—	613,365	612,349	1,016

(※) 貸付金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金17百万円を控除しております。

(注)1. 時価の算定に用いた評価技法およびインプットの説明

資産

買入金銭債権

第三者から入手した価格に基づき算出した価額を時価としており、入手した価格に使用されたインプットに基づきレベル2の時価に分類しております。

金銭の信託

原則として、信託財産である有価証券を「有価証券」と同様の方法により算定した価額をもって時価としており、当該有価証券のレベルに基づき、レベル2の時価に分類しております。

有価証券

活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に株式、国債、上場投資信託がこれに含まれます。公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に地方債、社債がこれに含まれます。

非上場投資信託については、委託会社から提示された基準価額等によっており、主に信託財産の構成物のレベルに基づきレベル2またはレベル3の時価に分類しております。

私募債は、第三者から入手した価格に基づき算出した価額を時価としており、入手した価格に使用されたインプットが観察可能なインプットを用いている場合または観察できないインプットの影響が重要でない場合については、レベル2の時価に分類しており、重要な観察できないインプットを用いている場合については、レベル3の時価に分類しております。

貸付金

貸付金の案件ごとに将来の回収予定キャッシュ・フローを、期間に対応したリスクフリーレートに内部格付けに基づく信用リスクプレミアムと流動性プレミアムを付加した割引率により割り引いた金額としており、レベル3の時価に分類しております。

負債

社債

取引所の価格および業界団体等より公表されている価格等を基に算定した価額をもって時価としており、レベル2の時価に分類しております。

デリバティブ取引

取引所取引については、取引所等における最終の価格をもって時価としております。店頭取引については、金利、外国為替相場等のインプットを用いて、将来キャッシュ・フローの割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定した価額をもって時価としております。

取引所取引については、主にレベル1の時価に分類しております。店頭取引のうち観察可能なインプットを用いている場合または観察できないインプットの影響が重要でない場合については、レベル2の時価に分類しており、重要な観察できないインプットを用いている場合については、レベル3の時価に分類しております。

## 2. 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品のうちレベル3の時価に関する情報

(1) 期首残高から期末残高への調整表、純損益に認識した未実現損益

2022年度(2023年3月31日)

(単位:百万円)

	有価証券		デリバティブ取引
	売買目的有価証券	その他有価証券	その他
期首残高	17,882	707,225	264
当期の損益またはその他の包括利益			
損益に計上(※1)	△1,321	14,992	990
その他の包括利益に計上(※2)	2,748	△12,420	135
購入、売却、発行および決済	63,483	37,982	△1,656
期末残高	82,792	747,780	△265
当期の損益に計上した額のうち連結貸借対照表日において保有する金融商品の評価損益(※1)	△1,321	15,353	372

(※1) 連結損益計算書の「資産運用収益」および「資産運用費用」に含まれております。

(※2) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」および「為替換算調整勘定」に含まれております。

2023年度(2024年3月31日)

(単位:百万円)

	有価証券		デリバティブ取引
	売買目的有価証券	その他有価証券	その他
期首残高	82,792	747,780	△265
当期の損益またはその他の包括利益			
損益に計上(※1)	2,286	12,485	1,072
その他の包括利益に計上(※2)	5,696	69,289	25
購入、売却、発行および決済	21,899	63,217	△1,417
期末残高	112,674	892,771	△584
当期の損益に計上した額のうち連結貸借対照表日において保有する金融商品の評価損益(※1)	1,545	13,267	439

(※1) 連結損益計算書の「資産運用収益」および「資産運用費用」に含まれております。

(※2) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」および「為替換算調整勘定」に含まれております。

## (2) 時価の評価プロセスの説明

金融商品の売買を行う部署が保有する金融商品の時価について、グループ各社が定める基本的方針に従って算定および検証が行われます。算定された結果は、金融商品の売買を行う部署から独立した部署によって検証が行われます。

時価の算定にあたっては、個々の資産の性質、特性およびリスクが最も適切に反映されるよう算定しております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法およびインプットの確認などの適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

## 3. 市場価格のない株式等および組合出資金等の連結貸借対照表計上額については次のとおりであり、金融商品の時価等および時価のレベルごとの内訳等に関する事項で開示している計表中の「有価証券」には含めておりません。

(単位:百万円)

	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
市場価格のない株式等(※1)	59,696	60,988
組合出資金等(※2)	178,984	201,662

(※1) 市場価格のない株式等には非上場株式等が含まれ、企業会計基準適用指針第19号「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」第5項に従い、時価開示の対象とはしていません。

(※2) 組合出資金等は、主に投資事業組合であります。これらは企業会計基準適用指針第31号「時価の算定に関する会計基準の適用指針」第24-16項に従い、時価開示の対象とはしていません。

4. 金銭債権および満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
2022年度(2023年3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預貯金	967,756	8,820	—	—
買現先勘定	69,999	—	—	—
買入金銭債権	—	380	—	20,117
有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
国債	35,216	103,859	93,925	244,180
地方債	—	5,300	6,500	400
社債	24,924	113,709	37,647	282,218
外国証券	35,691	141,561	312,400	462,019
その他の証券	247	19,206	25,416	1,170
貸付金(※)	250,710	227,149	58,494	27,631
合計	1,384,545	619,987	534,383	1,037,736

(※) 貸付金のうち、破綻先、実質破綻先および破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない6百万円は含めておりません。

2023年度(2024年3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預貯金	801,269	8,540	—	—
買現先勘定	14,999	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	20,139
有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
国債	18,244	113,545	116,635	266,810
地方債	—	6,700	5,100	400
社債	32,051	123,887	26,783	265,641
外国証券	19,637	162,795	383,817	566,241
その他の証券	367	42,246	24,131	299
貸付金(※)	108,228	218,697	60,072	21,702
合計	994,799	676,412	616,540	1,141,234

(※) 貸付金のうち、破綻先、実質破綻先および破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない4百万円は含めておりません。

5. 社債、長期借入金、リース債務およびその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
2022年度(2023年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
社債	—	—	—	—	85,829	516,222
長期借入金	10	10	9	9	9	26
リース債務	6,755	4,904	4,245	3,395	2,991	9,946
債券貸借取引受入担保金	177,859	—	—	—	—	—
合計	184,626	4,915	4,255	3,404	88,830	526,195

2023年度(2024年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
社債	—	—	—	88,294	—	518,921
長期借入金	10	8	8	8	7	14
リース債務	7,723	6,234	5,336	4,826	3,702	8,503
債券貸借取引受入担保金	155,078	—	—	—	—	—
合計	162,812	6,243	5,344	93,129	3,710	527,439

## 2 有価証券関係

「1. 連結財務諸表等 7 会計方針の変更」に記載のとおり、国際財務報告基準(IFRS)を適用している海外連結子会社は、IFRS第17号「保険契約」およびIFRS第9号「金融商品」を適用しております。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については、遡及適用後の数値を記載しております。

### 1. 売買目的有価証券

(単位:百万円)

	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
連結会計年度の損益に含まれた評価差額	△152,502	80,769

(注)連結貸借対照表において現金及び預貯金として処理している譲渡性預金ならびに買入金銭債権として処理しているコマーシャル・ペーパーを含めて記載しております。

### 2. 満期保有目的の債券

該当事項はありません。

### 3. その他有価証券

2022年度(2023年3月31日)

(単位:百万円)

	種 類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差 額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	公社債	556,937	512,773	44,163
	株式	1,218,861	302,791	916,069
	外国証券	658,134	532,671	125,463
	その他	180,885	167,719	13,166
	小計	2,614,818	1,515,955	1,098,862
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	公社債	482,577	510,507	△27,930
	株式	11,871	13,775	△1,904
	外国証券	602,534	657,454	△54,920
	その他	63,155	68,468	△5,313
	小計	1,160,138	1,250,206	△90,068
合計		3,774,956	2,766,162	1,008,794

(注) 1. 市場価格のない株式等および組合出資金等は、上表に含まれておりません。  
2. 連結貸借対照表において買入金銭債権として処理している貸付債権信託受益権を「その他」に含めて記載しております。

2023年度(2024年3月31日)

(単位:百万円)

	種 類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差 額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	公社債	436,555	406,225	30,330
	株式	1,648,737	291,982	1,356,754
	外国証券	1,184,831	980,254	204,577
	その他	250,800	214,049	36,750
	小計	3,520,924	1,892,511	1,628,412
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	公社債	601,575	639,608	△38,033
	株式	2,274	2,597	△322
	外国証券	295,341	315,352	△20,011
	その他	44,869	48,458	△3,589
	小計	944,061	1,006,017	△61,955
合計		4,464,985	2,898,528	1,566,457

(注) 1. 市場価格のない株式等および組合出資金等は、上表に含まれておりません。  
2. 連結貸借対照表において買入金銭債権として処理している貸付債権信託受益権を「その他」に含めて記載しております。

### 4. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位:百万円)

種 類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
公社債	168,095	5,427	10,132
株式	69,817	44,086	674
外国証券	247,268	943	12,453
その他	404	3,761	11
合計	485,586	54,218	23,273

2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

(単位:百万円)

種 類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
公社債	46,412	494	9,694
株式	80,400	58,793	69
外国証券	91,548	788	7,903
その他	4,483	2,514	127
合計	222,843	62,591	17,794

## 5. 連結会計年度中に減損処理を行った有価証券

2022年度において、その他有価証券(市場価格のない株式等および組合出資金等を除く。)について726百万円(うち、株式699百万円、外国証券27百万円)、その他有価証券で市場価格のない株式等および組合出資金等について1,229百万円(うち、株式1,034百万円、外国証券195百万円)減損処理を行っております。

2023年度において、その他有価証券(市場価格のない株式等および組合出資金等を除く。)について640百万円(うち、株式519百万円、外国証券121百万円)、その他有価証券で市場価格のない株式等および組合出資金等について751百万円(すべて株式)減損処理を行っております。

なお、有価証券の減損にあたっては、原則として、期末日の時価が取得原価に比べて30%以上下落したものを対象としております。

## 3 金銭の信託関係

### 1. 運用目的の金銭の信託

(単位:百万円)

	2022年度 (2023年3月31日)	2023年度 (2024年3月31日)
連結会計年度の損益に含まれた評価差額	6	13

### 2. 満期保有目的の金銭の信託

該当事項はありません。

### 3. 運用目的、満期保有目的以外の金銭の信託

(単位:百万円)

種 類	2022年度 (2023年3月31日)			2023年度 (2024年3月31日)		
	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差 額	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差 額
金銭の信託	20,835	17,352	3,482	4,429	4,430	△1

### 4. 減損処理を行った金銭の信託

2022年度において、運用目的、満期保有目的以外の金銭の信託において、信託財産として運用されている有価証券(市場価格のない株式等および組合出資金等を除く。)について89百万円減損処理を行っております。

2023年度において、運用目的、満期保有目的以外の金銭の信託において、信託財産として運用されている有価証券について減損処理の対象となるものはありません。

なお、有価証券の減損にあたっては、原則として、期末日の時価が取得原価に比べて30%以上下落したものを対象としております。

## 4 デリバティブ取引関係

### 1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

#### (1) 通貨関連

(単位:百万円)

区 分	種 類	2022年度 (2023年3月31日)				2023年度 (2024年3月31日)			
		契約額等	契約額等 のうち1年超	時 価	評価損益	契約額等	契約額等 のうち1年超	時 価	評価損益
市場取引 以外の取引	為替予約取引 売建	70,685	—	△1,203	△1,203	70,164	—	△1,959	△1,959
	買建	14,424	—	241	241	12,277	—	393	393
	通貨オプション取引 買建	10,000	—	6	△15	—	—	—	—
	通貨スワップ取引	1,992	—	42	42	—	—	—	—
合計			△912	△934			△1,566	△1,566	

## (2) 金利関連

(単位：百万円)

区 分	種 類	2022年度 (2023年3月31日)				2023年度 (2024年3月31日)			
		契約額等	契約額等の うち1年超	時 価	評価損益	契約額等	契約額等の うち1年超	時 価	評価損益
市場取引	金利先物取引								
	売建	5,507	—	△2	△2	—	—	—	—
	買建	743	—	△0	△0	—	—	—	—
市場取引 以外の取引	金利スワップ取引 受取固定・支払変動	3,280	—	△82	△82	—	—	—	—
合計				△84	△84			—	—

## (3) 株式関連

(単位：百万円)

区 分	種 類	2022年度 (2023年3月31日)				2023年度 (2024年3月31日)			
		契約額等	契約額等の うち1年超	時 価	評価損益	契約額等	契約額等の うち1年超	時 価	評価損益
市場取引	株価指数先物取引 売建	3,504	—	△1	△1	—	—	—	—
市場取引 以外の取引	個別株式オプション取引 売建	—	—	—	—	4,449	—	△440	△440
合計				△1	△1			△440	△440

## (4) 債券関連

(単位：百万円)

区 分	種 類	2022年度 (2023年3月31日)				2023年度 (2024年3月31日)			
		契約額等	契約額等の うち1年超	時 価	評価損益	契約額等	契約額等の うち1年超	時 価	評価損益
市場取引 以外の取引	債券先渡取引								
	売建	11,783	—	△10,598	149	—	—	—	—
	買建	20,449	—	18,292	△149	—	—	—	—
合計				7,694	△0			—	—

## (5) その他

(単位：百万円)

区 分	種 類	2022年度 (2023年3月31日)				2023年度 (2024年3月31日)			
		契約額等	契約額等の うち1年超	時 価	評価損益	契約額等	契約額等の うち1年超	時 価	評価損益
市場取引	クレジットデリバティブ取引 売建	1,355	691	18	18	—	—	—	—
市場取引 以外の取引	天候デリバティブ取引								
	売建	4,664	—	△75	45	4,680	—	△66	45
	買建	1,080	—	386	△10	1,110	—	12	△10
	地震デリバティブ取引								
	売建	98,150	—	△869	690	86,115	—	△771	616
	買建	43,810	—	290	△251	34,927	—	241	△212
	ロス・ディベロップメント・ カバー取引								
	売建	3,363	3,363	△45	△45	3,585	3,585	△28	△28
合計				△295	446			△613	411

## 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

### (1) 通貨関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2022年度 (2023年3月31日)			2023年度 (2024年3月31日)		
			契約額等	契約額等のうち1年超	時価	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
時価ヘッジ	為替予約取引 売建	その他有価証券	399,342	—	△4,678	404,310	—	△8,857
	通貨オプション取引 売建 買建	その他有価証券	100,627	—	△18	187,878	—	△212
			81,050	—	44	163,100	—	31
合計					△4,652			△9,038

### (2) 金利関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2022年度 (2023年3月31日)			2023年度 (2024年3月31日)		
			契約額等	契約額等のうち1年超	時価	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
繰延ヘッジ	金利スワップ取引 受取固定・支払変動	保険負債	44,500	37,000	3,346	37,000	30,500	2,352
合計					3,346			2,352